

### 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0196000020		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ神館		
所在地	三笠市榊町460番地39		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	平成22年12月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosio/infomationPublic.do?JCD=0196000020&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosio/infomationPublic.do?JCD=0196000020&amp;SCD=320</a>
-------------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年10月29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設内での行事にこだわらず、外出できる場所には積極的に出掛けていきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人が三笠市内で運営する3カ所のグループホームの一つです。高齢者の居住性を重視して設計施工されたバリアフリーの建物で、内部は明るく清潔感があり、暮らしやすい構造の建物です。介護事業に想いを持って取り組む施設長の熱意がホーム運営に反映され、職員に対する積極的な人材育成や良好な人間関係の構築によって、利用者一人ひとりの意向に合わせた利用者本位の明るく優しいケアサービスを提供しています。ホームは地域との連携にも力を注ぎ、町内会の祭事や掃除など、諸行事へ積極的に参加するばかりでなく、ホーム合同の行事に家族の他に周辺住民の方々や子供達が大勢参加しており、地域に根ざしたホームに育っています。利用者へのケアサービスも一人ひとりの詳細な記録シートを作成し、全職員の共有としながら支援しており、家族の安心を得ているホームです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内研修や職員会議でのケア検討の際には、介護理念に基づいてケアが行われているかを確認しあっています。	地域との繋がりを大切にする内容を含んだホーム理念を持ち、研修会や会議において理念に基づいたケアサービスのあり方を確認し、実践するよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加していて、地域の行事やホームの常時は相互に参加しており、日常的に買い物やドライブなどで外出する機会も多い。	ホームは地域との連携に努力し、町内会行事に積極的に協力しています。ホーム主催の行事にも周辺住民の方々や子供達が多数参加するなど、地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合で認知症の説明を求められ、職員がグループホームや認知症についてお話をさせていただきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会代表、地域包括センター、地域ボランティア、利用者家族代表などに参加して頂き、運営状況、活動計画などを報告し、委員会からもご指摘や意見を頂いております。	推進会議は、系列の3ホーム合同で定期的に開催しています。会議では報告事項以外にホームに関する意見交換を行い、運営に活かすようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている包括支援センター長さんや、社協の職員さんとの交流があり、社協には介護ベットを借りたりと協力して頂いています。	施設長や管理者は、随時、行政担当者とホーム運営等の情報交換を行いながら、市との連携を深めるように努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を施設内に設置し、身体拘束・虐待について研修をし身体拘束について理解をしており、身体拘束防止について取り組んでいます。	身体拘束をしないケアに関する委員会を設置しており、職員も関連の研修を受講して、身体拘束防止の意義を理解しています。玄関の施錠も夜間のみで、日中は自由に出入りが可能です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を施設内に設置し、施設内研修を行っています。また職員会議などでも身体拘束・虐待防止について話し合われることもあり、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の中で学ぶ機会がありますが、詳しい内容を全職員が把握しているわけではなく、今後も研修を通じて学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申込の時に家族とよく話し合い、利用者には何が必要かを相談しています。ホーム側からも出来る事出来ない事をよく説明するようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付けポストの設置、外部への苦情受付機関の案内、また日常的に家族からの相談などを直接受けています。	家族来訪時の報告とホーム便り及び利用者一人ひとりの詳細な便りを郵送しています。意見・要望等は内部で検討し、運営に反映させるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には施設長・管理者も参加しており、意見交換をしています。	運営に関する職員の意見等は、日常業務や職員会議で把握するようにしています。管理者の合同会議においても議題として取り上げ、協議しながら改善に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日頃から職場に来て勤務状況を見ています。また管理者から報告を受けて職員の能力評価を行っています。また職員自ら仕事に対しての自己評価を行い、向上心を持って働いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせた外部研修に参加しています。また施設内研修でもさまざまな内容で研修会を開催しています。職場内でも日常的にOJTを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に参加しており、研修を通じて他施設と交流があり、施設間交換研修などを行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し上体の把握をして、入居時に利用者さんとの関わりの中から、本人の不安な事や要望などを聞き出しサービス計画に反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に家族から困っている事や要望などを聞き、出来る事と出来ない事を十分説明して納得して頂いています。また入居初期には家族と蜜に連絡を取っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居してから利用者さんを良く観察し、必要なものを見極めます。また家族とも相談し、協力して頂ける部分は協力して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から教えて頂く事も多く、一方的な介護にならないよう利用者との関係を築くように心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者について家族と共に話し合い、家族に協力して頂ける部分はお願ひし、関係を希薄な物としないように家族と共に支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪や買い物には昔馴染みの場所を使い、利用者と一緒に going しています。またご家族も毎月訪問してくれています。	以前利用していた店や住んでいた場所などに、利用者の希望に応じて職員が付き添いながら出かけています。可能であれば、昔馴染みの方々にも会えるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんも一緒に食事の準備や片づけをして頂いています。また外出や行事などは利用者同士の関係を考えながら、数人または個別に出かけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者は死亡しており、家族からの連絡もなくなりました。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員からの押し付けにならないよう利用者の日常から希望や要望を感じ取り、サービス計画に反映させています。	利用者の希望や意向が把握できない時は、職員が根気よく話を聞きながら、利用者本位のサービスを実施するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活歴を家族から聞き取り、入居後は利用者さんとの関わりの中から趣味や趣向を聞き取りをしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な利用者さんの観察から、アセスメントシートや支援経過記録を通じて利用者の能力の把握に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと支援経過記録・アセスメントシートなどを用い、可能な場合は利用者からの聞き取り、家族の意見などを反映して介護計画をケアマネ中心に作成しています。	モニタリングやアセスメントを繰り返しながら、利用者に最も適したケアプランを作成し、職員会議等を通して全職員の共有としています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に支援経過記録・アセスメントシートがあり利用者の日常が記録されています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの相談要望などや本人の希望を受け、その時に必要なサービスを提供できるように取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室などは継続して利用し、外出が難しいときにはホームに美容師さんが来てくれています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前からの主治医に継続してかかっています。また利用者の状況や家族の希望で市外への受診もしており、家族の希望で往診医に来ていただいている利用者も居ます。	利用者の希望に応じて、随時内科、歯科の訪問診療がありますが、他の医療機関の受診も自由で、職員が付き添っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況や日常は記録されており、看護職員や訪問看護師が観覧できるようになっています。また訪問看護師から利用者状況を記録してもらい、介護職員が観覧するようにしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療情報、生活情報を提出しています。入院後は家族対応になりますが、職員は日常にお見舞いに行き、看護師から状況を聞くようにしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期に対しての説明を行っており、家族の看取りの希望を聞き覚書として残すようにしています。	重度化等の指針を作成し、入居時に説明して終末期生活支援に関する家族の覚書を保管しています。職員はターミナル研修を受講し、重度化等への対応について認識しています。	ホームは開設後の期間が短く、職員はターミナルケアを実際に経験していないため、系列のホームで、ターミナルケアを実際に体験する事により、職員のスキルアップになるよう期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習に参加している職員もいます。施設内研修では救急の手当てなどの研修会も開かれています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年に2回行い、町内会の人達に協力して頂いています。また災害時の地域への協体制については運営推進会議を通じ協力をお願いしているところです。	避難訓練は年2回実施し、運営推進会議でも訓練の必要性和地域住民の方々の協力要請をしています。また、災害発生に備えて食料品や医療品等の備蓄も予定しています。	災害発生時に、地域住民の方々に災害の内容に応じて、具体的にどのような協力をして頂くかを検討し、運営推進会議等で要請することを期待します。また、火災以外の想定される訓練の実施についても今後期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に対して親しみのある声掛けを心がけていますが、利用者の尊厳は守るように配慮しています。	職員は、利用者への言葉かけやサービス実施の際に誇りやプライバシーを損ねないように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で選択が必要な場面は、利用者の状況に応じて選択していただき、利用者の希望などがあれば必要に応じて対応しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望があれば、職員は可能な限り柔軟に対応していますが、全てにおいて利用者のペースで過ごせてはいない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は外出着に着替え、普段から自分で服を選んでいただけるようにしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けは毎回利用者さんと一緒に行っていきます。利用者の好みに応じてメニューを個別に変更する事もあります。	利用者は、食事準備や後片付け、簡単な調理を手伝い、メニューも希望に応じて変更しています。食事中は職員と一緒に楽しく過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューはバランスを考えて作られており、利用者に応じて食材や形状を変えて提供しています。また水分は好みの物を提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否をされる利用者もありますが、利用者に応じて声かけや口腔ケアの支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間は毎回記録されており、排泄間隔をみてトイレに誘導し、トイレで排泄出来るよう心がけています。	利用者の健康管理シートで排泄回数や時間を記録し、一人ひとりに合わせた排泄誘導を行いながら、自立排泄ができるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については日頃から苦労している事であり、常々職員間で工夫をこらして便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日は外出が多くあるため、基本的には入浴はありませんが、入浴を希望する利用者がいればお風呂を沸かします。	日曜日以外は毎日、午前と午後の時間帯に入浴が可能で、希望により毎日入浴の利用者もいます。日曜日でも希望があれば入浴可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じて安眠できるように、日中の活動や外出などを取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイル化しており、職員はいつでも観覧する事ができます。また看護職員に新しい薬のレクチャーを受けることもあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に応じてやりたい事や出来る事をして頂けるように、日頃から支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にまたは突発的に利用者との話しの中で外出が決まることが多くあります。また地域の行事に参加をしており、ホームの行事で焼肉大会や縁日を行い地域の人達や子供たちに多数の参加をしていただいています。	ホームに閉じこもらない生活支援に努力し、日常の散歩や買い物以外に、希望の場所へのドライブを楽しみ、冬期間はショッピングセンターへ行っています。また、行事として外食や遠出などの外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じて、小額ですが利用者は自分のお金をもっており、外出時に自分で買い物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族は頻りに訪問して下さり、遠方のご家族からは手紙や小包が届く事もあります。俺の手紙や電話をするように声かけなどをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を心がけた室内の内装を心がけています。花や季節のものを室内に装飾し、季節を感じてもらえるように配慮をしています。	高齢者が住みやすい構造の建物で、明るく清潔感があります。共有空間には、壁面のタペストリーなどの飾りや鉢植えなどがあって、親しみのある家庭的な雰囲気の中で、利用者は居心地良く過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室のソファなど自分の決まった場所があります。また廊下の両端にイスを置き、そこで利用者同士または職員と談話する事が多くあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は入居時にご家族と相談し使い慣れたものを入れてもらえるようお願いしています。	余裕のある広さの居室にはクローゼットも備え付けられ、利用者は好みの家具類を自由に持ち込みながら、安心してゆったりと暮らしています。	居室は掃除が行き届き、整理整頓されていますが、家族は常に清掃について望んでいます。通院・外出支援等でケアが繁忙となる場合などの説明を家族と十分に持ち、家族からの協力も得ながら、利用者・家族の望む居室作りの工夫を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、廊下や必要な場所には手すりが着いています。利用者は安全に移動する事ができます。		